## 地震研における研修制度の概要

平成28年度東京大学地震研究所研修実行委員会 実行委員長 芹澤 正人(技術部総合観測室)

### 地震研究所の概要

・ 本所は文京区弥生、本郷キャンパスの北端(寂しい)

• 有人の観測所が長野県小諸市・山梨県南部町(来年度から無人)に、その他無人観測所が新潟・茨城・千葉・神奈川・長野・和歌山・広島などにある

研究分野は陸域・海域地震のみならず、地殻変動・ 火山・ミューオンなど地球惑星科学分野の多岐にわ たる

#### 技術部の概要

- 総合観測室・技術開発室・情報処理室の3室 で構成
- 技術部長は所長が兼任 各室長は教員

#### 技術部

#### 総合観測室

観測全般に対する 技術的支援

#### 技術開発室

観測装置の試作や 部材の製作 (主に金属加工)

#### 情報処理室

観測データの処理など を行う

#### 技術職員の概要

- 現在は今年度退職予定者を含め20名(総合観測室は16名)
- ほとんどが東京に勤務・観測所勤務は2名(内1名 は今年度退職)
- 再雇用職員は今年度ですべて退職(謝金・嘱託へ)
- 年齢構成は30歳代後半~40歳代前半が中心
- 全員が技術部に在籍 (研究室付の技術職員はいない)
- 専門職制(技術職員・技術専門職員・技術専門員)のため全員役職は無い
- 法人化以降は部局選考採用(院卒または社会人)

#### 総合観測室の業務

- ・ 地震・地殻変動・火山等の観測
- 観測点 観測所の管理
- 機材管理
- その他支援業務



教員からの業務支援依頼を受け、内容に応じて適切な職員が 担当

(分野ごとに1~数名の小グループを組み、教員との窓口役の職員を配置)

## 技術職員向けの制度

• 研修制度

技術職員の知見を深めるための実習や他 機関の研修等への参加に係る経費を委員会が 負担する。また、年1回全体研修を開催

• 技報(技術報告)

年1回刊行され、主に技術職員が日々の 業務に関わる技術的な報告・論説等を投稿

#### 研修制度の歴史(1)

インターネット以前、東京と観測所の間の連絡手段が電話か郵便位しか無かった頃、観測所所属の職員は傍に教官がほとんど居ないため、技術を磨いたり地震を学ぶ手段が非常に少なかった。
 (唯一の勉強手段として観測所に図書室の分室があった)

同じ悩みを抱える観測所の職員が集まり、勉強会を 開いた



研修会の原型

#### 研修制度の歴史(2)

- 1970年 岡田先生(前・防災科技研理事長)、地震研に就職(富士川地殻変動観測所に 着任)
- 同年8月 宮村事件発生

(劣悪な労働環境の改善を要求していた臨時職員に対して教授が暴行)

後に震研紛争へと発展 教授会一職員間の断絶状態

1975年頃 震研紛争終結 待遇改善などで手打ち 関係修復へ

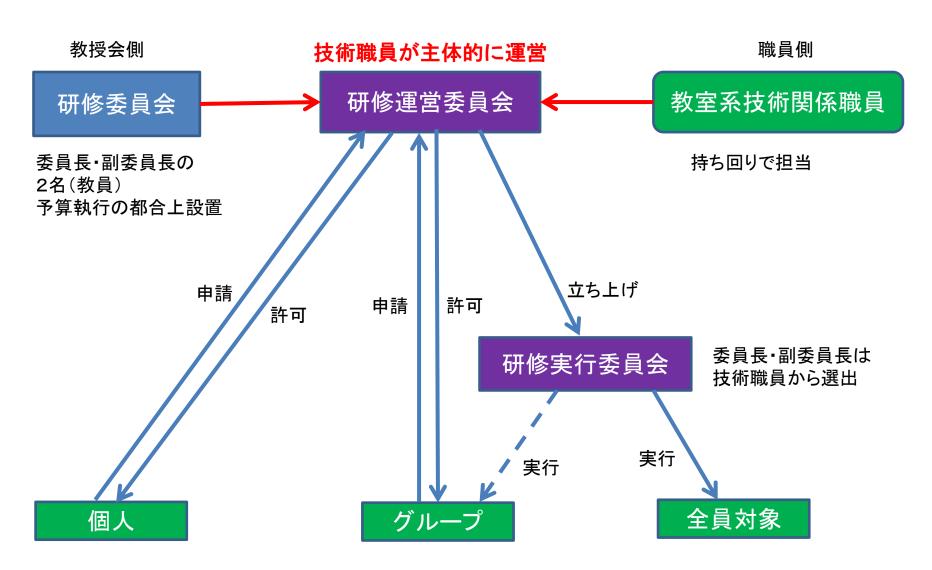
#### 研修制度の歴史(3)

- 1980年代 観測所の技官による観測所研修開催、 教官も講師や世話係として参加
- 1992年 第一回職員研修会開催
- 1998年 現在の研修制度へ移行



研修制度は技官の地位向上と信頼関係構築の一環 先輩方が苦難の末得た権利

#### 研修組織



※破線は必要に応じて実施

### 個人/グループ研修

- 資格免許取得(第二種電気工事士など)
- 他部局/他大学への研修等参加
- その他自己研鑚に必要な講習 文献購入等

#### 研修したい個人やグループ



- •随時受付
- ・原則として業務に関係した内容に限る
- 内容によっては別経費での研修を薦める

研修運営委員会

②申請内容を検討

#### 職員研修会(全員対象)

- ・年1回、3日間(延べ17時間程度)
- ・現在は1月中旬から下旬頃に開催
- 研修運営員会のメンバーで研修実行委員会を 立ち上げる
- (実行委員長・副委員長は技術職員)
- ・技術発表(口頭・ポスター)/所外研修・実習/ 特別講演など
- 所外からも発表・参加

(所外からの発表者は旅費を負担)

※所外参加実績 各大学 気象庁等関係機関

### 口頭・ポスター発表/特別講演(1・3日目)

- 日々の業務内で研究開発した技術についての説明 や臨時・緊急観測などの報告を発表
  - →今年度は熊本地震関連の発表が多かった (京大阿蘇観測所の被災状況など)

- 所外から関係分野の専門家をお呼びしてお話を伺う
  →今年度はアジア航測の千葉さん
- 退職を迎える教員(主に助教)にお願いして特別講演

※3日目終了後に地震研ラボツアーを開催

#### 所内外研修(2日目)

• 所外研修先

観測所(鋸山・筑波)・気象庁・国土地理院・防災科研・海ほたる(旧建設省観測点)・JAMSTEC・国立天文台・鉄道総研・極地研など

→今年度は神奈川県温泉地学研究所・大涌谷

・所内研修 避雷対策・web制作・電気工事士試験対策など

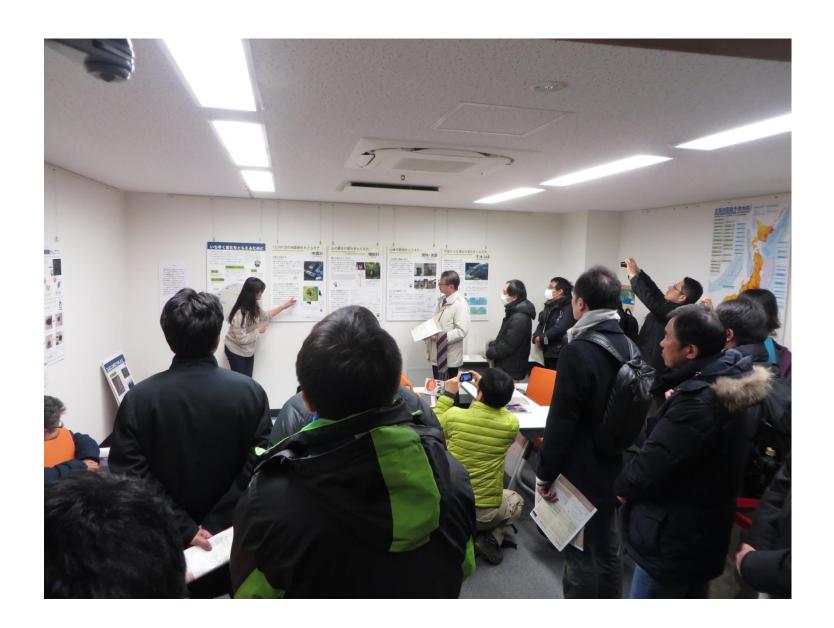
# 発表風景





## 所外研修(温地研•大涌谷)











### 課題

- 研修会の開始から四半世紀、研修制度の立ち上げから約20年が経ち、インターネットの普及など以前とは環境が変化し、研修制度も時代に合わせた改革が必要
- 技術職員の業務が増加し、職員研修会の準備の負担が厳しくなってきているため日程・開催間隔について検討を始めるべき
- 個人/グループ研修の対象を業務に間接的な部分 まで広げていくか検討